

マネージメント情報 2014年 4月

3月29日に北海道に帰ってまいりました。不在の間、ご心配ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。下半身には照射による、あざのようなものが残っているのと若干の違和感が多少残っているものの、いたって元気です。重ねて、お詫びとお礼を申し上げます。

ウイコンシン大学マジソンのDr.G Oetzel 獣医学教授が Professional Dairy Producers of Wisconsin (PDPW) で講演したものです。

分娩牛の病気を見つけるための5つの秘訣 (5 tips)

1) フレッシュ牛ペンにおける十分なヘッドロックスタンションの供給

ヘッドロックスタンションは「分娩後の牛の健康を管理する上で、絶対になければならない施設です」。これらの群において、飼槽スペースは、一頭当たり30インチ(76cm)必要ですが、ほとんどの農場のヘッドロックスタンションは24インチ(60cm)となっています。従って、この76cm/頭を確保するためには、80%の牛を入れて満杯であることを意味しています。

この重要な時期を飼養するペンに、ヘッドロックスタンションがないことは、牛と人両方に強いストレスを与えることとなります。

また、ほかの施設(たとえば、パルペーションレーン(直検レーン)、個別のシュートなど)では、獣医師らが呼吸や心拍数を測定するために、フルに接近することを困難にします。

もし、あなたがこのヘッドロックスタンションではなく、個別シュートにフレッシュ牛を移動させるとすると、その過程のなかで、貴方は牛と人にペナルティーを支払うことになるでしょう。

2) その日の最初の搾乳時にフレッシュな餌を供給すること

その日の最初の搾乳と、フレッシュなTMRの飼槽への供給がシンクロナイズ(同調)することを強く推奨する。そして、これは持続的でなければなりません。「パーラーの故障、ミキサーの故障によって一度でもこの同調性がくずれたら、貴方は牛の健康とパフォーマンスにおいてツケを支払うことになります」このタイミングが食欲というものに対して極めて重要である。また、この食欲こそ病気の牛を見つけるキーになるものです。

3) 飼槽を見る

パーラーから最後のフレッシュ牛が戻った5～10分後に、そのペンの前を歩いてみる。そして各牛によってできた食べた後（Hole）に特別な注意を払います。これはどうあなたが食欲をモニターするかということです。もしフレッシュ牛が餌にタッチしたあとがないようであれば、それは食欲がオフになっているサインとなります。

4) 飼槽を超えて観察する

トレーニングされた目というのは、個々の牛の観察を通して病気のサインをピックアップさせます。貴方の雇用人の中から、こうしたスキルを持った人間の養育と同時にそのスキルに見合った報酬の支払いが必要です。全体的な姿勢（attitude）一目、耳、スタンスあるいは慣習的行動の変化が病気のインディケーター（指標）になります。搾乳後の横臥に変わる行動などは彼女（その牛）を検査する理由となります。

5) 後姿をチェックする

牛を前から見た後は、彼女らの後ろに回ります。そこからは、陰部からの粘液物や糞の一貫性を観察することができます。いくつかの農場では、直腸手袋によって陰部の悪露の検査をしているところがありますが、中止すべきです。それらは往々にして、ばい菌を子宮に押し込んでいる結果になっていて、分娩後の回復に対してダメージを与えているようです。

「私たちは実際にこうした農場におけるフレッシュ牛の直腸手袋を利用した膣検査（直接膣に手を入れる検査）にほとんど価値がないことを発見しました」

ごく当たり前のことではありますが、分娩牛（フレッシュ牛）の扱いをどれだけ丁寧に行えるか、あるいは行うことが利益につながるのか Oetzel 先生は強調しています。彼の文章のなかでは「have penalized」＝「ペナルティーを課せられる」という表現が何度かでてきます。やるべきことをしないことは、どんなときにも高くつくということでしょう。

今一度、自分の農場のフレッシュ牛の管理体制と飼養環境をチェックしてみてはいかがでしょうか？ 乾乳牛とフレッシュ牛の管理が農場の利益に最も直接的につながっています。

車を運転し、日本を縦断してかえって来ました。
九州や関西から輸送される牛の大変さがよくわかりました。

行程は以下の通りでした。

指宿～鹿児島	指宿スカイライン	40 km
鹿児島～下関	九州自動車道	356 km
下関～中国吹田 (大阪)	山陽自動車道	516 km
中国吹田～米原	名神高速道	102 km
米原～新潟	北陸自動車道	476 km
新潟～郡山	磐越自動車道	150 km
郡山～安代 (青森)	東北自動車道	350 km
安代～八戸	八戸自動車道	65 km
八戸～苫小牧	フェリー	0 km
苫小牧～足寄	道央・道東自動車道	221 km
足寄～別海中標津	国道241・243号 道道13号	130 km

実走2400 km の旅でした。



奥さんと二人での、泊まる当てもない3泊4日の旅でした。

途中、姫路城と彦根城を見学しました。奥さんは、お城よりお土産屋さんが大好きです。しかも、入ったお店では必ず何かを買うという習性があるようで、こまごまとしたものや、お菓子などを丹念に見て回るので、それを待つ時間が私には運転以上に大変でした。あと、奥さんは大変な暴走族だということも判明しました。

まえから、運転が乱暴なのは分かっていたましたが高速道路にはいると俄かに本性をむき出して走ります。後ろに車が付かれると、さらにそのスピードが上がっています。本人はそれに気づいていないようなので、途中何度も注意しましたが、5分もすると再び120 kmくらいは普通に出していたようで、隣で私は一睡もできない状態でした。(もっとも彼女に言わせれば十分酩をかって寝ていたということですが・・・) しかも、この暴走族は、直進はめっぽう強く速いくせに、バックとか小道を曲がるのがうまくできないのです。それで宿泊のために知らぬ街に入ると、高速運転以上の恐怖を味わうことになります。従って、旅の後半は、高速道路に入るまでと降りるときにはあらかじめ私が運転することになりました。ともあれ、無事故無違反で根室に到着できました。鹿児島は暖かいのですが、黄砂とPM2.5さらには、桜島の火山灰などで空気がいがらっぽく、おいしくありません。また、常に空気がかすんでいます。(この時期は特にそのようですが・・・) 苫小牧について、港で吸った空気は明らかにおいしいもので、空気にも味のあることを強く感じました。不在の間、いろいろとありがとうございました。また、農場でお会いできるのを楽しみにしています。